

「保育所待機児童ゼロ」って本当ですか???

保育所に入りたくても入れない児童が250人も存在します!

■保育所待機児童の実態

本年5月、市は「保育所待機児童がゼロになった」と発表しました。しかしながら市は待機児童数を国の基準に則^{のつ}って算出しており、以下の事例に該当する場合は計上していません。

- 保護者が求職中である
- 預かり先がないため、保護者が育休を延長した
- 保護者が入所を諦めて申請していない
- 保護者が希望する保育所を指定している

実際、市の「待機児童ゼロ」という発表と実態は大きく異なっており、保育所への入所を申請したにも関わらず入所できなかった児童が250人も存在します(表①参照)。

表①: 保育所入所状況

保育所への入所申込者数	1785人
実際に保育所に入所できた人数	1351人
保育ルーム・家庭保育所で対応した人数	184人
入所を申請したにも関わらず、入所できなかった人数	250人

本当の「保育所待機児童ゼロ」を実現するために

もっと踏み込んだ対策が必要です!

■引き続き、取り組んでまいります!

市は、これまで保育所・保育ルームの増設による待機児童解消に取り組んできました。しかしながら、これらの施策による待機児童対策の推進には以下の問題があります。

【保育所開設に関わる問題点】

- 利用可能な市有地に限りがある
- 保育需要が大きい地域での土地の確保が困難
- 土地を確保したうえで保育所整備を行うには多額の経費が必要
- 計画から開園まで2年程度かかり、即時性に欠ける

■継続した取り組みが必要です!

これに加えて、待機児童数は年度中に増加するという問題もあります。過去5年間の記録によると年度末の待機児童数は年度初めに比べて、少ない年でも444人、多い年には805人も増加しています(表②参照)。しかも、この待機児童数は国の基準に則^{のつ}って算出されたものであり、実際には発表された数字よりも大幅に多くなると思われます。「子育てするなら西宮」を掲げる本市にとって、今後も待機児童対策の推進は最重要施策の一つであるべきです。

表②: 待機児童数の記録

	年度初めの待機児童数	年度末の待機児童数	年間の増加数
2008年度	134人	578人	444人
2009年度	223人	963人	740人
2010年度	310人	1115人	805人
2011年度	279人	972人	693人
2012年度	81人	701人	620人
2013年度	0人	???人	???人

【保育ルーム開設に関わる問題点】

- 1施設あたりの定員は5人であり、大規模な効果が期待しにくい
- 施設運営者の不足が危惧されており、今後、大規模な増設は困難

私は、「待機児童ゼロ」とは「潜在的な需要も含めて、年中を通して、待機児童がゼロの状態」であるべきだと考えています。この状態を実現するためには一定の基準を満たす認可外保育施設への補助の実施等、もっと踏み込んだ対策が必要です。引き続き、この問題に取り組んでまいります。

高木地区の新設小学校について

新設校の校区、周辺校の規模不足等、質問を頂く機会が多い問題について質疑しました。

■計画の進捗状況

高木小学校では児童数の大幅な増加に伴う学校規模の不足が問題となっていました。市はこうした状況を踏まえ昨年11月、校区内の土地を取得し、小学校を新設する方針を示しました。市は取得地の面積に合わせて、新設校の適切な学級数を18~24学級、児童数を630人程度として計画を進めています(表③参照)。

表③: 新設校開校に向けたスケジュール

2012年度	地域関係者との協議、保護者や地域関係団体等への説明等
2013年度	基本計画の策定、用地取得、校区の検討・決定等
2014年度	整備工事着手、校名の検討・決定等
2015年度	整備工事完了、開校準備
2016年4月	新設校開校

■校区は周辺4町案が有力です

市は新設校の校区について当初、地域住民が組織する「新設校設立推進委員会」に対して、

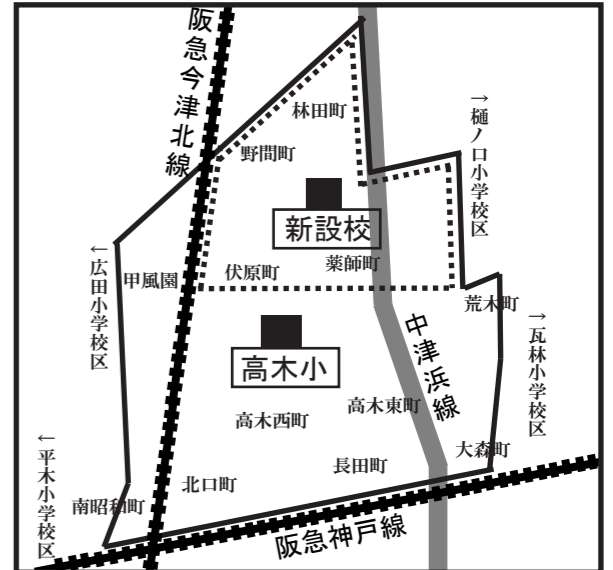
- 薬師町・野間町・林田町を校区とする3町案
- 薬師町・野間町・林田町・伏原町を校区とする4町案
- 薬師町・野間町・林田町の全域と伏原町の一部を校区とする3.5町案
- 野間町・林田町・伏原町の全域と薬師町の一部を校区とする3.5町案

の四案を示しました。しかしながら町を分割する3.5町案には

- 分割された町の児童が近くの新設校に通えない
- 町を単位とする地域活動等に支障が出る

等の問題があります。町は地域コミュニティーの核であり、分割するべきではありません。質疑の結果、市は4町案を基本に、新設校の校区設定に取り組む考えを示しました(図①参照)。

図①: 高木小学校区周辺の位置図



※実線は現在の高木小学校区
※点線は新設校区となる可能性が高い4町

■周辺校の校区変更もありえます

新設校の開校によって高木小学校の教育環境は大幅に改善されます。一方、高木小学校区と隣接する小学校区においては瓦林小学校区が「監視地区」に、広田小学校区・樋ノ口小学校区が「予測地区」に指定される等、学校規模の不足が深刻な問題となっています(※)。

こうした状況を踏まえて、市は瓦林小学校について

- 教室不足が深刻である
- 今後も教室不足が継続する場合、校区変更を視野に教育環境の改善を図る必要がある
- 関係者と協議しながら慎重に検討を進める

という認識を示しました。

※市は児童・生徒の受入が困難、または困難となることが予測される学校区を、状況が厳しい順に「受入困難地区」「準受入困難地区」「監視地区」「予測地区」に指定しています。市は、これらの地区での共同住宅等の開発に対して指導要綱に基づき延期・中止・計画変更等を求めています。